

深く、また広く学ぶこともできた国際学会

生命農学研究科 植物生産科学専攻 ゲノム農学研究室 河合恭甫

2019年6月24日から2019年6月30日まで、国際学会 The 23rd International Conference on Plant Growth Substances (IPGSA)に参加するため、パリ (フランス)に滞在した。

パリで開催された国際学会 IPGSA には世界各国から植物ホルモン研究を行う研究者が参加し、私の研究室からは私を含め5人が参加した。学会は5日間行われ、そのなかで国内外の研究者の方々のプレゼンテーションやポスター発表が行われた。本学会の発表の形式を大別すると、大講義室で植物ホルモンについての広い知見が発表



IPGSA 学会会場のパリ第5大学

されるセッション、3つの小講義室に分かれてより専門的な知見について学べるセッション、ポスターを用いて発表を行うポスターセッションの3つのセッションがあった。

大講義室で行われたセッションでは、植物ホルモンに関する様々な知見、具体的には植物体内での植物ホルモンの輸送や合成関連遺伝子のお話、また植物が外部からストレスを受ける際の応答と植物ホルモンとの関連に関する研究などのテーマの発表を聴講した。また、3つの講義室に分かれて行われたセッションでは、それぞれの講義室で異なる研究分野についての研究成果の発表が連続して行われた。このセッションでは自分の興味のある分野の発表を選んで聴講することができるため、自分の専門分野に関連する発表や全く異なる分野の研究分野について幅広く学ぶことができた。

私が発表を行ったポスター発表のセッションは2日目と4日目の夕方に行われた。私の発表は4日目に行い、そこでは多くの研究者の方々とディスカッションができた。ポスター発表においては国外の研究者の方へは英語での発表を行ったが、用意したポスターを読み上げるのではなく、簡潔に説明すること、また聞いてくださった方の質問には、適切に質問の意味・意図を聞き取り回答することが必要であり、それらの難しさをあらためて感じた。

さらに発表のセッションだけでなく、食事の時間での交流は国内外さまざまな研究機関での実際の研究の様子を直接聞くことができ、ラボ間のスタイルの違いを学ぶことができて非常に有意義だった。

今回の学会で学んだ英語での発表の経験や国内外の様々な研究者との交流を、積極的に英語を用いて発表することや異なる環境での研究などの、これからの研究生活に生かしていきたい。